

# 教員のICT活用指導力の向上に焦点を当てた学校情報化の実践研究

学籍番号 199106

氏名 齊田俊平

主任指導員 寺嶋浩介

## 1. 背景と目的

近年、グローバル化や人工知能（AI）など情報技術の急速な進展に伴い、将来の予測が困難な時代が予想される。そんな中、これからの時代に求められる子どもたちの資質・能力を育成するには、学校においても教育の情報化を推進していくことが極めて重要である。

そこで、教育の質の向上を目指し、教員にとって必要な ICT 活用指導力を明確にするとともに、その能力の向上を図り、学校全体の情報化を推進することを研究の目的とする。

## 2. 総合的な学校情報化

実習校における学校情報化の実現に向けては、「情報活用能力の育成」、「教科指導における ICT 活用」、「校務の情報化」の3つの側面を通して教育の質の向上を目指した。

### 2.1 情報活用能力の育成

基本的な操作方法の習得や基礎的な学習体験の機会を確保するために、年間を通じた学習計画、または学年をまたいだ体系的な計画等の情報教育カリキュラムの作成を目指した。また、児童が自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任を持つとともに、犯罪被害を含む危機を回避し、情報を正しく安全に利用できるようにするため、情報モラル教育の推進を図った。さらに、プログラミング教育必修化に向け、指導事例の創出・普及等、児童に指導するための教師の指導力向上を図る取組を実施した。

### 2.2 教科指導における ICT 活用

情報活用能力の育成を確実に育んでいくためには、各教科等の特質に応じて適切な学習場面で育成を図ることが重要であるとともに、育まれた情報活用能力を発揮することにより、各教科等における主体的・対話的で深い学びの実現を目指した。また、児童が基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身につけることができるよう ICT を活用して個に応じた指導の充実を図った。

### 2.3 校務の情報化

ICT 環境整備の加速化・利便性の向上につながる取組を推進するため、筆者をはじめ視聴覚部会や週に1度訪問する ICT サポーターによって ICT 活用の支援体制を構築し、ICT 活用頻度の向上や環境改善を目指した。

### 3. 「授業に ICT を活用して指導する能力」の向上

2年目は、より一層の効果的な ICT 活用を目指し、教員の ICT 活用指導力「B 授業に ICT を活用して指導する能力」の下位項目に焦点を当て、育成を目指し、年間を通じた連続研修を設計した。第1回の研修会では、研究テーマである「協働学習」を推し進めるため、教員研修における動機づけの工夫を行い、効果測定に基づいて研修の効果を検証した。その結果、受講者の学習意欲は高まり、その後も継続されたことが明らかになった。また、研修リーダーとして研修後も働きかけを行うことで、学習意欲の継続だけでなく、ICT 活用効果への理解の深まり、ICT 活用への不安の軽減など、様々な効果をもたらせた。その結果、「協働学習」の実践は積み重ねられ、1学期は10事例が、2学期には17事例が蓄積された。また、実践の評価・改善を図っていく R-PDCA サイクルのモデル図を作成し、各学期を1サイクルとして計画から改善までを細かく回していくことで、教科指導における実践力を高めていった。第3回校内研修では研究主任と連携し、研究授業・研究協議会・講師による講義の3部制の研修を設計した。ICT を活用した授業を実際に参観し、研修を通じて理解を深めることで、効果的な ICT 活用のイメージを明確にし、さらなる実践の意欲向上へとつなげた。

### 4. 結果と考察

1年目の5月、3月に実施した学校情報化診断と教員の ICT 活用指導力チェックリストの調査結果から、ともに向上が見られた。しかしながら、学校情報化診断における「ICT 活用による学力向上」は、実践についての効果検証を行う風土が未発達であることや、「プログラミング教育」に対する教員の意識が低い等の課題が見られた。ICT 活用指導力については、全16項目において向上が見られたものの「B-2 互いの意見等を共有・比較する」や「B-4 グループで話し合っただけで考えをまとめる」の項目についてはさらなる能力の向上が望まれた。

2年目の同調査による結果では、教員の ICT 活用指導力はすべての項目において向上が見られた。また、課題であった協働的な学びの観点についても2項目ともに向上が見られ、「B-2」においては有意傾向であることが示された。さらに、教員調査の結果から ICT を活用した協働学習の実践を通じて、ICT 活用の効果を実感し、日常の学習指導においても学び合いの場面を意識して取り入れていくなど、研修後の行動変容が見られた。そして、学校情報化診断においても、ほぼすべての項目において向上が見られ、ICT を活用した学習活動の充実が実現された。

### 5. 成果と今後の課題

実習校における学校情報化が推進され、一人一人の教員が ICT 活用指導力の必要性を理解し、ICT を活用した協働学習をはじめ、多岐にわたる効果的な実践を積み重ねることで、自己研鑽を深め、ICT 活用指導力の向上を図ることができた。

今後、児童の情報活用能力の育成を図るために、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることが求められる。